

Family list

1 application(s) for: JP3018448 (U)

1 No title available

Inventor:

Applicant:

EC:

IPC: (IPC1-7): A61L9/12

Publication JP3018448 (U) - 1995-11-21

Priority Date: 1994-07-09

info:

Data supplied from the *espacenet* database — Worldwide

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号

第3018448号

(45) 発行日 平成7年(1995)11月21日

(24) 登録日 平成7年(1995)9月13日

(51) Int. Cl.⁸

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

A 6 1 L 9/12

評価書の請求 未請求 請求項の数4 書面 (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願平6-9834

(22) 出願日 平成6年(1994)7月9日

(73) 実用新案権者 592118572

植田 秀樹

奈良県香芝市逢坂2丁目315-1 メゾン

逢坂3602

(72) 考案者 植田 秀樹

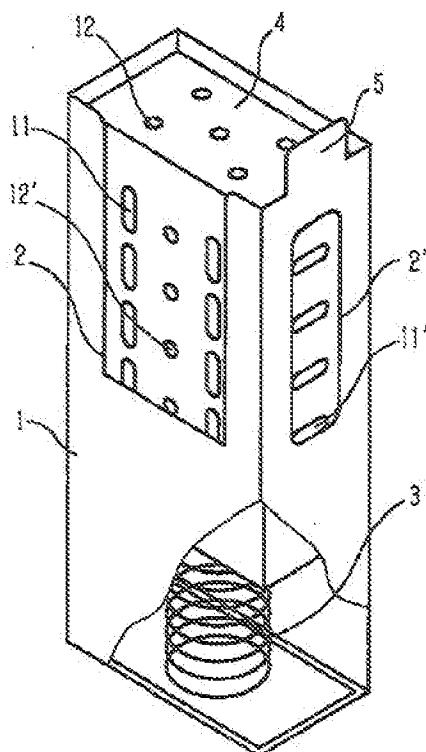
奈良県橿原市五井町121番地

(54) 【考案の名称】 消臭芳香剤発散装置用カートリッジ装置

(57) 【要約】

【目的】この考案は、消臭芳香剤発散装置におけるカートリッジ装置に関するものである。

【構成】任意の薄板で消臭芳香剤4及び昇降移動装置3が収納可能な箱1を形成し、消臭芳香剤4の発散用の開口部2を設ける。



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 任意の薄板で、消臭芳香剤4及び昇降移動装置3が収納可能な箱1を形成し、消臭芳香剤4の発散用の開口部2を設けた消臭芳香剤4の装填、取り出しが自由な消臭芳香剤発散装置用カートリッジ装置。

【請求項2】 開口部2を消臭芳香剤4の減少に伴い発散量の調整が行える形状にした請求項1の消臭芳香剤発散装置用カートリッジ装置。

【請求項3】 開口部2の横板面に残量確認の目安となる目盛りを設けた請求項1の消臭芳香剤発散装置用カートリッジ装置。

【請求項4】 さまざまな消臭芳香剤4の大きさや形に対応することができる請求項1の消臭芳香剤発散装置用カートリッジ装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本考案の斜視図

【図2】 本考案の使用例

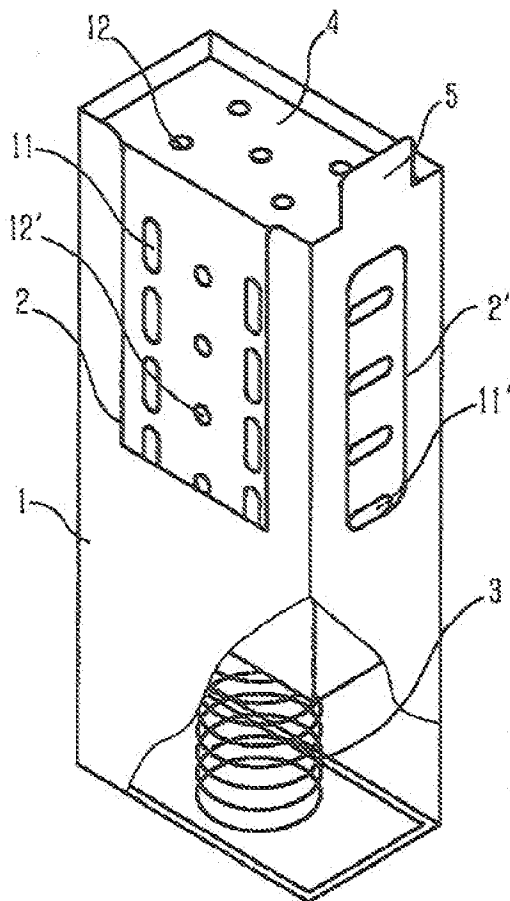
【図3】 本考案の他の実施例を示す斜視図

【図4】 本考案の他の実施例を示す斜視図

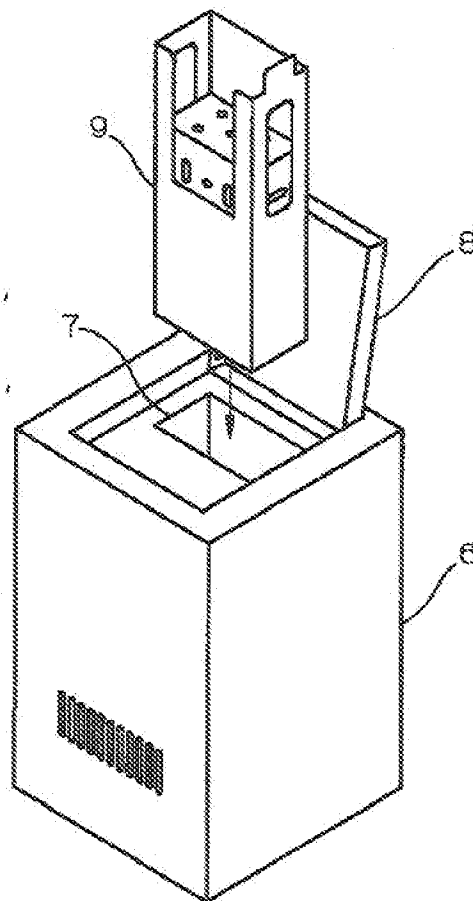
【符号の説明】

- 1は箱
- 2は開口部
- 3は昇降移動装置
- 4は消臭芳香剤
- 5は取手
- 6は消臭芳香剤発散装置
- 7は挿入口
- 8は消臭芳香剤発散装置の蓋
- 9はカートリッジ装置
- 10は目盛り
- 11は発散口
- 12は発散口

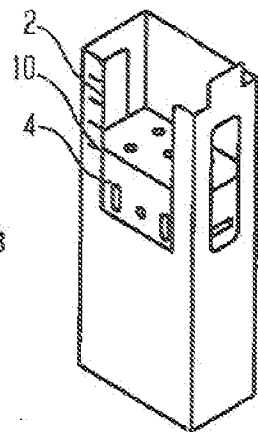
【図1】



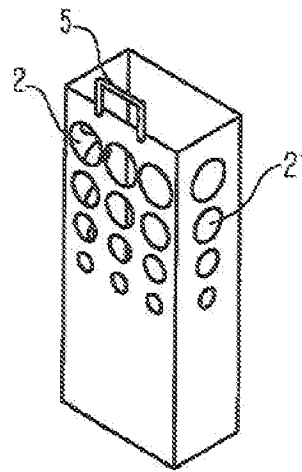
【図2】



【図4】



【図3】



【考案の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この考案は消臭芳香剤発散装置におけるカートリッジ装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来の消臭芳香剤発散装置は、裏蓋や底面蓋を開閉して直接消臭芳香剤を出し入れするものであった。

【0003】

【考案が解決しようとする課題点】

従来の消臭芳香剤発散装置を壁に設置又は床置きにした場合、消臭芳香剤の残量確認や新旧交換は、装置を壁から降ろしたり、底面より消臭芳香剤を取り出すのに反転させるなどして、手間と危険を伴った。

【0004】

また、消臭芳香剤の残量確認において、取り出した消臭芳香剤を直接目視して行う方法では不確実であった。

【0005】

そして、さまざまな消臭芳香剤の大きさや形に対応することができず、発散装置は専用の大きさ、形の消臭芳香剤に限定されていた。

【0006】

さらに、大きな発散装置等では手の入る大きな開口部を設けなければ、消臭芳香剤を発散装置に装填できなかった。

【0007】

以上の課題点を解決する為に本考案は開発された。

【0008】

【課題を解決するための手段】

任意の薄板で、消臭芳香剤4及び昇降移動装置3が収納可能な箱1を形成し、消臭芳香剤4の発散用の開口部2を設けた消臭芳香剤発散装置用カートリッジ装

置。

【0009】

【作用】

本考案は、図2で示すように発散装置から容易にカートリッジを取り出し消臭芳香剤の新旧交換が行える。

【0010】

また、カートリッジ装置に昇降移動装置を使用することによって、消臭芳香剤の残量をその浮上度合いで、簡単かつ正確に確認することができる。

【0011】

さらに、カートリッジ装置では消臭芳香剤の大きさや形を変えることが可能である。

【0012】

そして、カートリッジ装置の開口部の大きさ、形状、数により、消臭芳香剤の発散量の調整が行える。

【0013】

【実施例】

図1は本考案の第一の例である。昇降移動装置3に圧縮コイルバネを使用したもの及び消臭芳香剤4が収納可能な底のついた箱1を形成し、消臭芳香

剤4の発散口2を手前1ヶ所はLの字の切欠とし、他3面に角孔、上部に取手5を設けた。尚、昇降移動装置3は圧縮コイルバネに限定はなく、その他の方法をとってもよい。

【0014】

図2は本考案の使用例で、図では上からカートリッジ装置9を取り出しているが、取り出し方向に限定はなく、前面又は横から取り出す方法を実施してもよい。

【0015】

図3は本考案の第二の例で、図のように開口部2は上方が大きくなっており、開口部2の大きさや数により消臭芳香剤4の発散量を調整する機能を設けたものである。尚、開口部2はその形状、大きさ、数に限定はない。また取手5もその

形状、位置に限定はなく、存在しなくてもよい。

【0016】

図4は本考案の第三の例で、開口部2の横板面に消臭芳香剤4の残量確認の目安となる目盛り10をうつことを実施する。

【0017】

【考案の効果】

したがって、安全にかつ容易に発散装置からカートリッジ装置を取り出すことができ、消臭芳香剤の残量確認や新旧交換が正確、簡単である。

【0018】

また、さまざまな大きさ、形の消臭芳香剤にも対応でき、発散量の調整も簡単かつ正確に行える。